

## 伊与喜小学校

『心豊かに学び合い高め合う  
児童の育成』をめざして

校長 濱田 俊二

### ◆はじめに

本年度は、3人の新入生を迎え、全児童数16人、完全複式の3学級編成でスタートしました。

本校は、三方山や伊与木川などの自然に囲まれた6地区からなり、保護者や地域の方々はとても温かく、学校を支えてくれます。地域の協力のもとに、多くの学校活動が行われています。まさに、学校、保護者、地域が三位一体となつて進んでいる学校です。

### ◆学校経営理念

昨年度から、3年間を見通した「学校経営計画」を作成しています。その中で、本校は複式・小規模校の特色を最大限に生かし、学校教育目標「心豊かに学び合い、高め合う児童の育成」を柱に、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指しています。「子どもが主人公」を常に念頭に置き、児童の実態に即したきめ細かい指導を行い、

一人ひとりに力を付けていきます。具体的な実践の柱となるのが校内研修です。

### ◆校内研修の取り組み

研究主題を「主体的に学び、共に高め合う児童をめざして」ユニバーサルデザインの授業づくりを通して」と設定し、校内研修を実施して、私たち教職員の指導力と子どもたちの学力の向上に努めています。

### 1、複式教育の充実

本校の特色である複式学級では、2つの学年が同じ教室で同時に学習を行うために、教師が片方の学年からもう片方の学年へ移動するという「わたり」を使って指導をしています。教師が直接子どもとかわる「直接指導」と、教師が片方の学年と関わっているときに自分たちで学び合う「間接指導」があります。この時大事なのが、子どもたちが自分たちだけで、あるいは1人できちんと学習できると



1・2年生の授業

いうことです。そこで、ポイントとなるのが、間接指導の時の子ども同士の主体的な学び合いです。話し合いや練習合い、まとめなど、学習リーダーを中心に意見を発表し合い、思考を深めています。また、昨年度から「ユニバーサルデザイン」を取り入れた授業作りも進めています。学習環境、学習形態、支援のあり方を工夫していくことで、すべての子どもたちが「わかる」「できる」ようにさせたいと思っています。

### 2、基礎学力の定着と学力の向上

「読み・書き・計算」の力は、学校教育の中で、必ず身につけなければならない基礎的・基本的な力です。本校でも漢字の定着、音読、計算練習を、授業の中、家庭学習、チャレンジ学習の中に位置づけ、繰り返し学習することとしています。

次の表は、4月に行われた標準学力テスト(2・5年の全体的な結果です。このデータの中から子どもたちの課題が多く見えてきました。計算力の不確かさ、問題文も含めた文章読解力の弱さなど。子どもたちの学力はデータ

### 標準学力調査結果 (全国を1とする)

国語	算数	理科
0.99	0.91	0.93

で表せるものだけではありません。算数が、少しでも課題を解決できるように努力していきます。

今年度の特徴として、「放課後学習」があります。

学習支援員が週4日、帰りの会終了後から下校

まで復習を中心に指導しています。算数を中心にその日習ったことは確実に、その日のうちに理解定着できるように取り組んでいます。



放課後教室授業風景

また、読書活動にも力を入れています。朝読書、昼読書、読書量の設定、家庭読書の充実、読書環境の整備を行っています。今年度は、校長室(第2図書館)やランチルーム隣(第3図書館)を整備し、子どもたちが今まで以上に読書に親しんでくれることを期待しています。

### 3、心の教育の充実

授業の中で、共に認め合い支え合える場を設定し、子どもたちの自尊感情を高めるようにしています。また、あいさつや返事の徹底、「ありがとう」や「ごめんなさい」が素直に言えるような子どもを目指しています。

### ◆伊与喜家の子どもたち

伊与喜家(伊与喜の住民)の子どもたちの朝は早く、7時半ごろにはもうみんな学校に来ています。「おはようございます」「〇〇先生、さようなら」と、子どもたちは毎日、学校にきた時帰る時、職員室の前で礼儀正しくあいさつしてくれます。少ない人数ですが、掃除や作業も一生懸命します。上級生が下級生にとっても優しくしています。「先生あのね」と、よく話しかけてきます。そんなかわいい伊与喜家の子どもたちです。



第2図書館の様子